事　務　連　絡

令和元年１２月０９日

関係各位

東北農業試験研究推進会議作物生産推進部会長

農研機構東北農業研究センター

水田作研究領域長（部会長）　 石井卓朗

　生産基盤研究領域長（副部会長）　中山壮一

令和元年度東北農業試験研究推進会議作物生産推進部会

作業技術研究会の開催について

このことにつきましては、公文書（令和元年１１月８日付け、元東セ第０８０７００２号）にて農研機構東北農業研究センター所長より既にお知らせ致しましたが、下記の要領にて開催致します。関係各位には、貴職より周知方よろしくお願いいたします。

記

１．趣　　旨

東北農業試験研究推進会議運営要領に基づき、東北地域農業に係わる作業技術分野の試験研究を適切かつ円滑に推進するため、農研機構東北農業研究センター及び公設試験研究機関等の関係者が参集し、現場段階での技術的課題等について議論するとともに、当該分野が重点的に取り組むべき研究開発とその推進方向について検討する。

最近になって想定以上の豪雨や長雨または干ばつにより、農業生産にさまざま影響が出ている。そこで、東北地域における気候変動への適応技術について検討するため、作業技術や施設工学、農村工学分野での対応について講演者から情報提供を得て、本年度の重点検討事項「東北地域における気候変動への適応技術の現状と課題」について議論する。

２．開催期日　　令和２年１月２８日(火) 13:20 ～ １月２９日(水) 12:00

３．開催場所　　アイーナ（いわて県民情報交流センター）研修室501

 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号

４．議　　題

１月２８日　13:20～17:15

１）開会・挨拶

２）重点検討事項「東北地域における気候変動への適応技術の現状と課題」

話題提供

（１）麦・大豆栽培の気候変動に対応した作業技術的な適応技術

農研機構中央農業研究センター水田利用研究領域北陸輪作体系グループ　関　正裕　氏

（２）水稲の冠水被害特性を考慮した低平農地域の豪雨リスク評価

農研機構農村工学研究部門地域資源工学研究領域水文水資源ユニット　皆川 裕樹　氏

（３）気候変動に伴う温室の被災事例と温室の耐雪・耐風構造

農研機構農村工学研究部門農地基盤工学研究領域農業施設ユニット　森山　英樹　氏

（４）各県及び東北農研からの話題提供

（５）総合討論

 １月２９日　9:10～12:00

３）研究成果情報の検討・確認

４）「最新農業技術・品種2021」候補の選定

５）現場段階での重要な技術的課題の提案と検討

６）令和２年度作業技術研究会(夏期)についての意見交換

７) 閉会

５．参集範囲 国立研究開発法人および公設試験研究機関、試験研究を担う地方独立行政法人、東北農政局、県行政・普及部局、大学、その他部会長が必要と認めた者

６．事務局・連絡先等

 〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4

 農研機構東北農業研究センター生産基盤研究領域　作業技術グループ長　長坂善禎

 TEL:019-643-3535 　FAX:019-641-7794　E-mail:zentei@affrc.go.jp

【別紙１】

令和元年度東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会

作業技術研究会　提出資料一覧

※ 必ず提出して頂きたい資料にはNo.に\*印を付しています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| No. | 資料名 | 提出期限 | 様式 |
| 1\* | 作業技術研究会出席申込書 | 1/14（火） | 様式A (Word) |
| 2\* | 試験研究課題名一覧（完了・単年度・新規） | 1/14（火） | 様式B (Word) |
| 3 | 成果情報候補（原案）同上、（修正版） | 1/7（火）正午1/21（火） | 別添 (Word or一太郎)同上 |
| 4\* | 重点検討事項に係わる資料 | 1/14（火） | 様式C (Word) |
| 5 | 現場段階での重要な技術的課題 | 1/14（火） | 様式D (別添、Excel) |
| 6 | 次年度研究会（夏期）のテーマ（素材） | 1/14（火） | 様式E (Word) |

注１）資料は全てA４版で作成し、メール添付ファイルにて下欄の研究会事務局宛てに送信して下さい。また、研究会運営等に関する問合せも同事務局までお願い致します。

　２）様式A～Eを含む電子ファイルは各県連絡窓口担当者に送信いたします。

　３）「現場段階での重要な技術的課題」は各研究会事務局にも提出していただきます。作業技術分野の視点からの課題提出をお願いします。同資料は、農林水産・食品産業科学技術研究推進事業（農水省競争的資金制度）の領域設定や農水省委託プロの検討素材として取り扱われます。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 【作業技術研究会事務局】 　〒020-0198　岩手県盛岡市下厨川字赤平4 　農研機構東北農業研究センター　 生産基盤研究領域　　長坂　善禎TEL:019-643-3535E-mail: zentei@affrc.go.jp |

【別紙２】

令和元年度成果情報候補の提出・検討方法

１）各県連絡窓口担当者にメールでお送りする「1\_令和元年度研究成果情報について（推進部会用）」および「2\_R1普及成果情報の記載方法について (推進部会用)」、「3\_R1研究成果情報の記載方法について (推進部会用)」をご参照のうえ、1月７日（火）正午までにメールにて研究会事務局宛てに提出願います。各県の検討会議等で了承されていない場合は、仮の成果情報候補（原案、後に取消し可）として提出下さい。

２）作業技術研究会に提出された成果情報候補は、２名のレフェリーに事前審査を依頼し、修正事項の指摘及び以下の判定をして頂きます。なお、レフェリーについては、候補の内容に応じて研究会事務局が選定・依頼します。

A：このまま（軽微な語句の修正を含む）成果情報として取り上げて良い。

B：指摘事項に基づいて修正した上、成果情報として取り上げて良い。

C：成果情報として相応しくないので、提出の再考を求める。

３）１月１5日（水）までに事務局からレフェリーの指摘事項と判定結果をメールにて返送します。

４）レフェリーの指摘を参考に修正し、成果情報（修正版）を1月２１日（火）までにメールにて研究会事務局宛てに再度提出願います。全ての成果情報が揃い次第、PDF化して各県連絡窓口担当者宛てに事前に送信致します。

　　研究会当日の検討・確認時間が限られていますので、出席者は予め一読願います。

５）研究会の場において提出された成果情報を検討し、ブラッシュアップを図ります。また、その中から「最新農業技術・品種2021」候補を選定します。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

成果情報の提出および検討・確認のフロー

各 場 所 　 研究会事務局

1/７（火）正午 　● ------------------------------------> ○

成果情報候補（原案） ↓

 ↓レフェリーのチェック

 1/1５（火） 　○ <----------------------------------- ●

↓ 原案・コメントの返却

↓ 加除修正

1/21（火） 　● ------------------------------------> ○

成果情報（修正版） ↓

 ↓

 ------------------- ●

 ↓

１/29（水） 　　 研究会にて内容を検討・確認

【別紙３】

これまでの夏期研究会テーマ及び冬期研究会重点検討事項

|  |
| --- |
| 夏期研究会テーマ |
| 令和元年度（R1.8.27/-28，福島県)　 | 「スマート農業技術の普及における現状と課題」 |
| 平成３０年度（H30.8/27-28，宮城県) | 「東日本大震災からの復興の現状と課題」 |
| 平成２９年度（H29.8/21-22，岩手県) | 「東北地域における土地利用型農業を中心としたICT・ロボット技術の活用」 |
| 平成２８年度（H28.8/25-26，青森県) | 「農業の国際化に向けた野菜の先進的生産技術」 |
| 平成２７年度（H27.8/20-21，秋田県) | 「水田作低コスト化のための農業機械、作業技術開発の現状と課題」 |
| 平成２６年度（H26.8/21-22，山形県) | 「水田農業における安定多収技術」 |
| 平成２５年度（H25.8/23-24，福島県） | 「農作業安全の現状と課題」 |
| 平成２４年度（H24.8/30-31，宮城県） | 「被災地の復旧状況と復興に向けた取り組みと課題」 |
| 平成２３年度（H23.8/18-19，岩手県） | 「震災復興を視野に入れた東北地域の水田農業の技術開発」 |
| 平成２２年度（H22.8/19-20，青森県） | 「寒冷地の地域資源を活かす低コスト栽培システムの研究」 |
| 平成２１年度（H21.8/20-21，秋田県） | 「水田転換畑における露地野菜等栽培の現状と今後の課題」 |
| 平成２０年度（H20.8/19-20，山形県） | 「水田転換畑における土地利用型作物栽培の現状と今後の課題」 |
| 平成１９年度（H19.8/7-8，福島県） | 「資源循環に向けた取り組みとバイオ燃料の今後」 |
| 平成１８年度（H18.8/24-25，宮城県） | 「多面的機能を活かした水田基盤と管理作業改善による大規模営農」 |
| 平成１７年度（H17.8/22-23，岩手県） | 「水田農業における農業機械・土木分野の課題（排水対策と機械除草）」 |
| 平成１６年度（H16.8/18-19，青森県） | 「自然エネルギーを利用した農業の事例研究」 |
| 平成１５年度（H15.8/23，秋田県） | 「露地野菜栽培における機械化の現状と今後の課題」 |
| 平成１４年度（H14.8/23，山形県） | 「水田を活用した土地利用型農業の推進」 |
| 平成１３年度（H13.8/23，福島県） | 「野菜・園芸における施設栽培技術の課題」 |
| 冬期研究会重点検討事項 |
| 令和元年度（H29.1/30-31) | 「東北地域における気候変動への適応技術の現状と課題」 |
| 平成３０年度（H29.1/29-30) | 「東北地域でのスマート農業技術の現場への適用に向けた現状と課題」 |
| 平成２９年度（H29.1/30-31) | 「東北地域における人工知能（AI）活用の可能性と適用可能な現場の課題」 |
| 平成２８年度（H28.1/30-31) | 「東北地域におけるＩＣＴ・ロボット技術等の活用に向けた現状と課題」 |
| 平成２７年度（H27.2/1-2) | 「平坦地･中山間地等、東北地域の多様な地域条件に対応する作業技術開発の現状と課題」 |
| 平成２６年度（H26.2/4-5) | 「東北地域の水田農業におけるスマート農業の可能性と実現に向けた課題」 |
| 平成２５年度（H26.2/4-5） | 「攻めの農林水産業に対応した東北地域土地利用型農業の展開に資する作業技術的課題」 |
| 平成２４年度（H25.2/5-6） | 「東北の施設農業における再生可能エネルギー利用の技術的課題と研究方向」 |
| 平成２３年度（H24.1/24-25） | 「東日本大震災に対応した工学的研究の課題と復興に向けた取組」 |
| 平成２２年度（H23.1/25-26） | 「東北農業の経営改善に寄与する工学的新技術」 |
| 平成２１年度（H22.2/1-2） | 「新たな農業機械技術と普及上の課題」 |
| 平成２０年度（H21.1/26-27） | 「生産資材コスト高騰に対応した農業工学分野に関わる技術的課題」 |
| 平成１９年度（H20.1/30-31） | 「有機農業における作業技術・農業土木に関する研究課題」 |
| 平成１８年度（H19.2/2） | 「農業機械・農業土木研究の産学官連携の推進方策」 |
| 平成１７年度（H18.2/1） | 「東北地域における農業機械・農業土木研究の将来方向と研究推進方策」 |
| 平成１６年度（H17.2/1） | 「水田農業ビジョンに対応した作業技術・農業土木研究の方向」 |
| 平成１５年度（H16.2/3） | 「自然エネルギーの活用事例と研究方向」 |
| 平成１４年度（H15.2/4） | 「農業機械の耐久性および低コストに関する諸課題」 |
| 平成１３年度（H14.2/5） | 「農作業の安全・労働強度の評価方法と軽労化技術」 |

※　 平成２０年度より作業技術研究会は基盤技術推進部会の一分科会に編成されました。

※※ 平成２４年度より作業技術研究会は農業生産基盤推進部会の一分科会に編成されました。

※※※ 平成２８年度より作業技術研究会は作物生産推進部会の一分科会に編成されました。

【様式-A】

令和元年度東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会

作業技術研究会　出席申込書

下表に必要事項をご記入の上、E-mailにて作業技術研究会事務局（別紙１参照）宛てに送信下さい。

提出期限は1月1４日（火）とします。

該当箇所に○を付して下さい。

|  |  |
| --- | --- |
| 機関名： | 代表者名： |
| TEL：E-mail： |
| 氏　名 | 部・課・研究領域名等役　職　名 | 1/28（火）作業技術研究会 | 1/29（水）作業技術研究会 | 1/28（火）情報交換会\* |
| （例）東北太郎 | 生産基盤研究領域主任研究員 | ○ | ○ | ○ |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

注　１）宿泊は各自でお申込み下さい。

　　２）作業技術研究会の情報交換会を以下のとおり開催します。

日 時：平成３１年１月２８日（火）　18:00～

会 場： 飲み喰い処 ばんから屋

 　　岩手県盛岡市盛岡駅前北通4-4 国労会館１階

 　　TEL： 019-625-7444

会 費：3,500円（予定）（作業技術研究会の受付時に徴収します。）

備 考：盛岡駅南口より徒歩5分

【様式-B】

下表に必要事項をご記入の上、E-mailにて作業技術研究会事務局（別紙１参照）宛てに送信下さい。提出期限は1月1４日（火）とします。

令和元年度試験研究課題名一覧表

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 機　関　名（分支場名等を含む） | 研究期間 | 課　題　名 |
| (例) 農研機構東北農業研究センター生産基盤研究領域 | 平27~29 | ○○を利用した△△技術の開発 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

【様式-C】

令和元年度重点検討事項

「東北地域における気候変動への適応技術の現状と課題」に係わる資料

令和元年度東北農業試験研究推進会議作物生産推進部会の重点事項である「東北地域における気候変動への適応技術の現状と課題」に関連して、作業技術分野における研究対応の方向を検討したいと思います。なお、検討に先立って、議題にありますように3件の話題提供が行われます。

つきましては、以下の項目についてご記入の上、E-mailにて作業技術研究会事務局（別紙１参照）宛てに送信下さい。提出期限は1月1４日（火）とします。

|  |
| --- |
| 令和元年度重点検討事項に係わる資料　　　　　　　 |
| 　　　　　 | ○ ○ 県 |
| １．東北地域における気候変動への適応技術の現状と課題１）２）２．残された課題や今後プロジェクト研究等で実施したい課題・内容、他県および研究開発法人と連携して実施したい研究テーマ等について（他の研究分野へ要請したい事項を含む）１）２)※ 以上をA4、1頁で作成ください。検討会では各県１０分程度で説明していただきます。説明の際には、パワーポイントの使用が可能です。パワーポイントによる資料をこの資料に代えることも可能ですが、その場合、１．２．の内容が分かることと、1ページに6スライドを配置するなど資料のページが増えすぎないように、また文字が小さくなりすぎないようにご注意ください。 |

【様式-D】

「現場段階での重要な技術的課題」に係わる資料

各県連絡窓口担当者宛てに以下の様式ファイル（Excel）をお送りしますので、必要事項をご記入の上、E-mailにて作業技術研究会事務局（別紙１参照）宛てに送信下さい。

提出期限は1月1４日（火）とします。



【様式-E】

下表に必要事項をご記入の上、E-mailにて作業技術研究会事務局（別紙１参照）宛てに送信下さい。提出期限は1月1４日（火）とします。

|  |  |
| --- | --- |
| 　令和２年度作業技術研究会（夏期）のテーマ案（素材）　　　　　　 | ※複数可 |
| 　　　　　　　　 | ○ ○ 県 |
| ・令和２年度作業技術研究会（夏期）、（開催予定地：山形県）　　テーマ：　　内　容： |

※ 別紙３「これまでの夏期研究会テーマ及び冬期研究会重点検討事項」をご参照下さい。